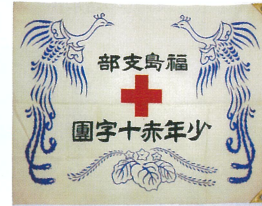




青少年赤十字(JRC)創設100周年



クレヨン・石けん・歯ブラシ・おもちゃが入ったアメリカからのギフトボックス



当時の福島支部
少年赤十字団 団旗

青少年赤十字(Junior Red Cross、以下JRC)のはじまりは、第一次世界大戦時にカナダ・アメリカなどの子どもたちが赤十字に依頼して、戦争の被害にあった子どもへの慰問品集めや包帯づくりなどの奉仕活動を行ったことがきっかけでした。当支部にも、第二次世界大戦の終戦後にアメリカの子どもたちから送られた「ギフトボックス」が現存しています。文房具や衛生用品などがメッセージとともに詰められており、当時に思いを馳せることができます。JRCはそんな「優しさ」や「思いやり」から生まれ、現在に至るまで脈々と受け継がれてきました。

福島県では現在、ほぼ全ての小・中学校(加盟率97%)と、35の高校が加盟し、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」を実践目標として、メンバーの一人ひとりが、「気づき・考え・実行する」態度目標を養い、日々、地道な活動を積み重ねています。

今年は、JRC創設100周年を機に10月1日(土)～2日(日)、郡山市で「第1ブロック支部高等学校青少年赤十字交流会」を開催しました。コロナ禍のためオンライン参加の県もありましたが、北海道・東北の高校生が一堂に会して、各地域でのJRC活動を紹介したり、地域貢献・環境問題・紛争問題などについて討議したりと交流を深めました。

2日目には三春町の「コミュタン福島」を見学し、震災と原発事故を経験した福島県についての思いや東北の復興に、高校生としてどのように貢献していくかなどについて語り合いました。



リーダーシップ・トレーニングセンター



「指示のない生活」の中で、自ら「気づき・考え・実行する」リーダーシップと、相手を思いやることを育むことを目的に行われます。

今年は3年ぶりに、7月7日(木)～9日(土)、県内各地から高校生メンバーが集まり、猪苗代町にある国立磐梯青少年交流の家にて開催することができました。3日間寝食を共にし、ホームルームと呼ばれるグループ単位でフィールドワーク、ワークショップ、ディスカッションなどのプログラムを通じて、深い学びとたくさんの気づきがある濃密な時間を仲間と共有することができました。

学校公開・指導者研修会

10月6日(木)、二本松市立二本松北小学校と二本松第一中学校を会場に、集合形式では4年ぶりの開催となる「学校公開」を実施しました。両校とも3年間、青少年赤十字が目標とする「気づき・考え・実行する」子どもの姿を目指して取り組んできました。当日は、県内から約200名の先生方が参加し、授業を参観しました。

消毒の徹底や換気などの他、オンラインで別の教室でも授業が参観できるよう、密にならない対策も講じました。



二本松第一中学校の公開授業では
ちょうちんまつりの紹介で太鼓を披露

参観者は、学校あげてのきめ細かな取組から、思いやりや優しさを持ち、地域を大切にして、よりよく生きようとする子どもたちの気持ちを感じ取っていました。また、運営を支援していただいた青少年赤十字賛助奉仕団*の皆さんからも、素晴らしい学校公開だったとの声が寄せられました。

*青少年赤十字賛助奉仕団…元教員で組織された奉仕団



二本松北小学校の昇降口には
「気づき考え実行する」の掲示が



+ 日赤ふくしま

回覧



日本赤十字社
マスコットキャラクター ハートちゃん



ウクライナからの避難者に保健医療支援を実施するハンガリー赤十字社ボランティア



キーウの地下鉄駅に避難している人々に食料や必要な物資を配付するウクライナ赤十字社

ウクライナ人道危機に対する赤十字の活動

ウクライナ各地で激化している戦闘が始まって10か月以上が経過しました。連日メディアでも報道されているように激しい戦闘は現在も続いており、周辺国への避難民の数は累計1,500万人を超えたことが報告されています。

赤十字はこの深刻な人道危機に対して、「給水衛生および衛生促進(WASH) 保健医療支援」、「シェルター(避難所)、生計支援を含む統合的支援」、「保護と予防」を中心とした、幅広い活動を展開しています。

日本赤十字社も国際赤十字の一員として、令和4年3月2日から「ウクライナ人道危機救援金」の受付を開始しました。この資金は、赤十字国際機関を通じて、この人道危機で援助を必要とする人々への支援および復興支援に充てられています。

これまでの受付金額は、11月28日時点で74億1,903万9,330円にのぼり、現在も多くの皆さまからのご支援をいただいております。

また、中長期的な支援が必要であることから、日本赤十字社では、物資支援(医療資機材等)、人的貢献(専門技術を持つ職員等派遣)、医療施設等の補修・再建など、ウクライナ国内での直接支援を実施しています。今後も、日本赤十字社が強みを持つ保健医療の分野を中心に、引き続き支援してまいります。

ウクライナ
人道危機の
赤十字速報
はこちら



ウクライナ西側のモルドバ共和国で救援物資倉庫の管理責任者に任命された大阪赤十字病院職員



ウクライナ西部で避難民に対応する仮設診療所をフィンランド赤十字社と設置する大阪赤十字病院薬剤師



災害救護訓練を実施

日本赤十字社では、災害時には総力を挙げて被災者の災害救護活動に取り組むとともに、平時には災害発生時に備えた訓練や研修を重ねています。今年度は、感染症流行下において災害が起こった場合にどのように対応するかということをポイントに、大規模災害に備えた訓練を7月9日（土）実施しました。

災害救護の基礎に関する内容からはじまり、各救護員の役割や感染防御についての講習、個人防護具（PPE）の着脱の実習、避難所の調査・状況把握などの机上演習を行いました。

これからも、職員ひとりひとりが救護員としての自覚をもって、救護活動に必要な知識と技術の向上に努めてまいります。



赤十字ボランティアのつどい（第11回）



10月19日（火）、郡山市のビッグパレットふくしまに、赤十字奉仕団員、赤十字有功会員、日赤地区・分区関係者約450名が集いました。

長年にわたり赤十字活動に貢献していただいた功績をたたえ、井出孝利副知事（日本赤十字社福島県支部副支部長）より表彰伝達を行い、1奉仕団・11有功会、奉仕者389名・有功会員46名が表彰されました。

防災教室・防災セミナーを実施してみませんか？

過去の災害の教訓を踏まえ、災害時に大切な「いのちを守る」ための考え方や行動を学ぶ防災教室・防災セミナーを、県内各地で開催しています。

非常食体験の際に、市町村に配備されている赤十字の炊き出し用の釜を使用し、地元の赤十字奉仕団協力のもと、地域の皆さまと一緒に防災教室を行っている小学校もあります。



町内会や企業・団体様へ指導員を派遣し、防災にまつわる講演、非常食作り、ハザードマップを使った図上訓練、ワークショップなど幅広い内容からご希望のプログラムをお選びいただけます。

詳しくは事業推進課までお問い合わせ下さい。（☎024-545-7996）



献血にご協力を～献血カードのアプリができました！！～

年間を通して患者さまへ安定的に血液を届けるために、皆さまのご協力をお待ちしております。

アプリのダウンロードはこちらから

※AppleおよびAppleロゴは米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
App StoreはApple Inc.のサービスマークです。
※Google Play および Google Play ロゴは、Google LLC の商標です。



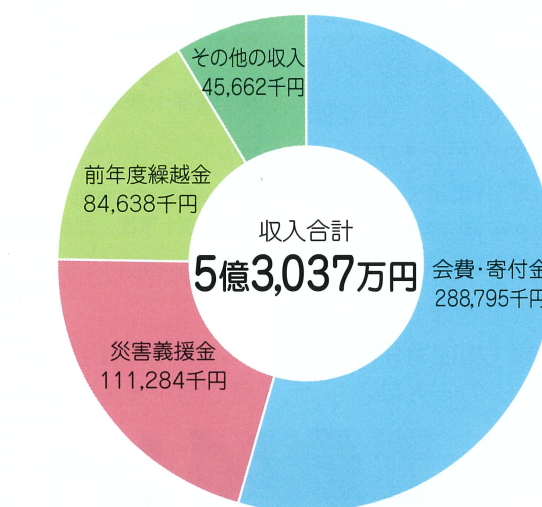
2022年9月28日
献血カードのアプリができました！



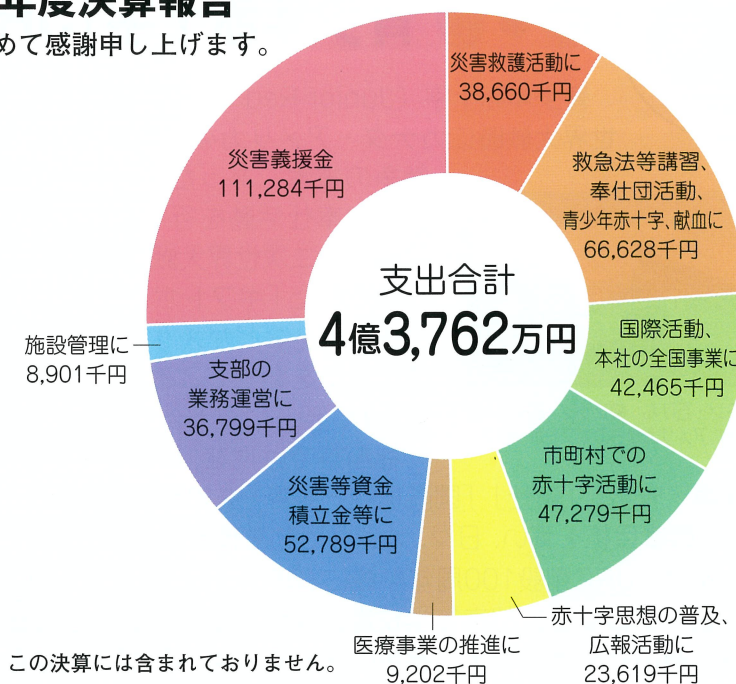
赤十字が行う活動は、皆さまからお寄せいただいた活動資金とボランティアで支えられています。皆さまのご支援により、災害救護をはじめ赤十字の活動を行えますことに心より感謝申し上げます。

日本赤十字社福島県支部 令和3年度決算報告

活動資金にご支援をいただきました皆さまに、改めて感謝申し上げます。



※赤十字病院、血液センターは施設ごとの会計になっており、この決算には含まれておりません。



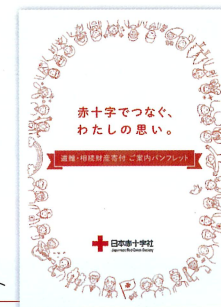
～あなたの思いを赤十字へ～

日本赤十字社は、国や県からの補助金等を受けずに、ご寄付いただいた活動資金で組織を運営し、事業を行っております。

赤十字へのご寄付には税制上の優遇措置があるほか、表彰制度を設けております。

また、遺贈・相続財産のご寄付も承っております。ご案内パンフレットをお送りしておりますので、ご希望の方は下記の組織振興課までお問い合わせください。

遺贈、相続財産寄付ご案内パンフレット



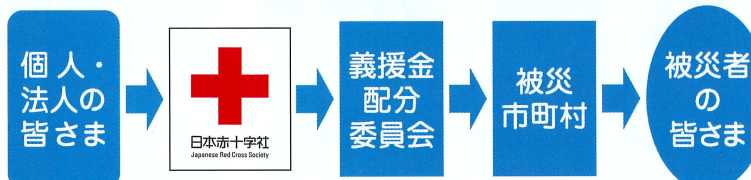
義援金・海外救援金の受付を行っています

- 令和4年8月3日からの大雨災害義援金
- ウクライナ人道危機救援金
- アフガニスタン人道危機救援金
- バングラデシュ南部避難民救援金
- 中東人道危機救援金

※令和5年1月現在

詳しくはホームページをご覧ください。

「義援金」の流れ



日本赤十字社にお寄せいただいた「義援金」は、被災都道府県に設置される義援金配分委員会に全額送金し、同委員会が定める配分基準に従って被災された皆さまへ届けられます。

何が違うの？

- 活動資金…日赤が行う人道活動のために使われます。
災害で被災した方への医療救護活動や救援物資のほか、防災教育や青少年赤十字（JRC）、救急法の講習などは、活動資金をもとに行われます。
- 義援金…全額被災者に届けられます。
被災都道府県に設置される「義援金配分委員会」に全額を送金し、配分基準に従って被災者へ届けられます。国や自治体が行う復旧事業や、日赤の活動には一切使われません。
- 海外救援金…海外で発生した災害や紛争による被災者を支援するために使われます。
世界各国の赤十字社・赤新月社を通じて、被災地の赤十字社の救援活動・復興支援活動に役立てられます。

《お問い合わせ先》 平日 9:00～17:30

●組織振興課 TEL 024-545-7998
…寄付・ボランティア・青少年赤十字について

●事業推進課 TEL 024-545-7996
…講習会・災害救護について・海外救援金について

●総務課 TEL 024-545-7997

Instagram
やってます！

